

7. ボランティアリーダー育成事業

ボランティア・NPO 活動センターでは、本学の学生を対象にボランティアに関する各種講座を実施しています。入門編として、ボランティアについての基礎的な講義とボランティア体験を行う「ボランティア入門講座」、応用編として、センターを運営する学生スタッフや既にボランティア活動を行っている学生を対象に、スキルアップや組織運営の向上を目指した「ボランティアリーダー養成講座」を開催しています。

事業名	ボランティア入門講座	
	深草キャンパス日時／参加人数	瀬田キャンパス日時／参加人数
第1回	2019年5月20日(月)17時30分～19時30分／49名	2019年5月24日(金)17時30分～19時30分／39名
第2回	2019年6月1日～6月16日の土、日に計8ヶ所で体験を実施／参加者87名	
第3回	2019年6月18日(火)17時30分～19時30分／37名	2019年6月19日(水)17時30分～19時30分／31名
協力	受入団体：8団体（第2回ボランティア体験）	
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター	

1. 経緯・目的

学生が何か新しいことを始めたいと感じる年度初めに、毎年本講座を実施しています。ボランティアに関心はあるが、活動未経験や活動経験が少ない本学学生と、ボランティア・NPO 活動センターの学生スタッフ新登録者を参加対象とし、その後のボランティア活動に繋がるきっかけとなることを目指しています。

全3回の構成で、第1回目ではボランティアの基礎的な考え方について講義形式で学び、第2回目には地域の団体の協力を得て、実際にボランティア活動を体験、第3回目はセンターの学生スタッフがリーダーとなってそれぞれの体験をふりかえるグループワークを行います。最後にセンターで現在紹介しているボランティアを紹介して今後の活動につなげます。

2. 概要

第1回 講義「ボランティアって何だろう」

講師／内容（両キャンパスとも）：

南 多恵子氏(京都光華女子大学准教授)

ボランティアの基礎的な事柄について学びました。ボランティアの理念をエピソードやグループワークを交えながら、和やかな雰囲気の中で進めていただき、学生達はとても熱心に受講しました。



第2回 ボランティア体験プログラム
8ヶ所（4日間）に分かれてボランティア体験
①6月1日（土）

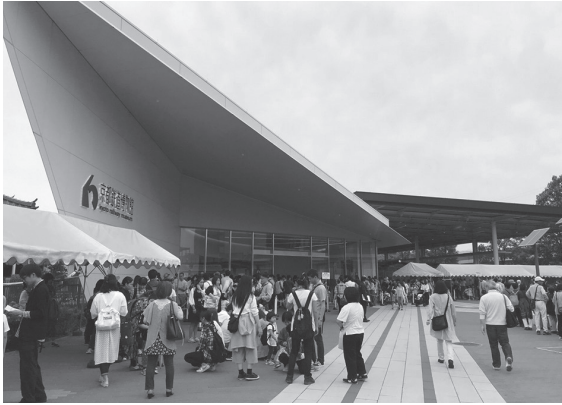


受入団体：NPO 法人京都・深草ふれあい隊
竹と緑

参加人数：21名

活動場所：深草キャンパス近辺の竹林

②6月2日（日）



受入団体：京都府自閉症協会
参加人数：10名
活動場所：京都鉄道博物館

⑤6月15日（土）



受入団体：第20回 NGO スタディツアー合同説明会
参加人数：8名
活動場所：龍谷大学大阪梅田キャンパス

③6月2日（日）



受入団体：障害福祉サービス事業所 瑞穂
参加人数：12名
活動場所：事業所での「みずほ祭り」

⑥6月16日（日）



受入団体：京エコロジーセンター
参加人数：10名
活動場所：センターでの「暮らしの省エネまつり」

④6月15日（土）



受入団体：しが健康医療生協
参加人数：6名
活動場所：子ども食堂「にじの家サロン」

⑦6月16日（日）



受入団体：森の風音
参加人数：15名
活動場所：びわこ文化公園

⑧6月16日（日）



受入団体：認定 NPO 法人アクセス

ー共生社会をめざす地球市民の会

参加人数：6名

活動場所：団体事務所（京都市伏見区深草西浦町）

第3回 活動のふりかえり

8ヶ所で様々な体験をしてきた学生たちが、体験の写真を見ながら活動内容を発表し感想を共有した後、「ボランティアをひとことで表すと？」をテーマにグループワークを行いました。終了後には掲示しておいたセンターからのオススメボランティアのチラシを見て、学生スタッフに熱心に相談する姿も見受けられました。ぜひ次の一步を踏み出して欲しいと思います。



3. 受講者の声・得られた効果など

- ・ボランティアの性質として、自発性（主体性）、無償性、社会性、先駆性などがあり、特に先駆性が重要だと考えており、誰もやってないからやらないじゃなくて、やってないからこそ自分がやる、という意味をもちたい。
- ・1回目の講義で、ボランティア活動の説明だけでなく、ボランティア先で気を付けるべきこと、身だしなみ、コミュニケーションのとり方までお話していただけたのでとてもよかった。ボランティア体験プログラムについても1つずつどのような活動をしているのか

が写真付きで説明があったので、よく分かり、これから行くのが楽しみになりました。

- ・大学生になって初めて参加したボランティアでしたが、とてもためになったことと、入門講座に参加していなかったら出会えていなかった人とも話せて、本当に良かった。
- ・初回のボランティアの定義の説明がわかりやすかった。また、初めてのボランティアでしたが、フォローがしっかりしていて参加しやすかった。
- ・ボランティアに行きたいとは思っていたが、実際にやってみると、とても達成感と充実感があって、その中に楽しさもあった。
- ・自分の行ったボランティア先だけでなく他のボランティア先に行った人の感想を聞いたり、他の学生と交流できたのがとても良かった。
- ・まず講義形式でボランティアについて学ぶことができ、それを実践するという形で経験する流れが良かった。ふり返りで自分が経験したことを改めて整理することができた。自分にとって良い経験になったし、また一つ自分も成長できたかなと思う。

4. コーディネーター所感

まずは講義形式でボランティアについて学び、そのあと様々な体験先で活動を行う形式をとっています。新入生の参加が多く、今までボランティアに参加したことがない学生が多いため、あいさつや笑顔が大切という、基本的なことも伝えています。

実際に活動先に行くときは、コーディネーターが引率し、さらに学生スタッフ数名と一緒に活動してサポートをしてもらっています。初対面のメンバーが、初めて行く場所で、初めての活動をするので、時には小さなトラブルも起こりますが、学生達が一生懸命頑張る姿に、体験先の方から驚きの声をいただくことも多く、臨機応変に対応する学生達の柔軟な姿勢に学ばされることも多々あります。

第3回目の振り返りでは、8か所で様々な活動をしてきた学生が交流することで、さらに、ボランティア活動への意欲がわくことを期待しています。同じ体験をしていても違った感想をもつところに、体験学習の醍醐味があるのではないのでしょうか。

センターで実施する入門講座は、深草、瀬田、大宮3キャンパス合同で行っているため、普段は交流する機会のない学生が出会える良い機会となっています。大学に入ってきたばかりの新入生が、この入門講座をきっかけとして、大学には、さまざまな課外活動の機会があり、多彩

な学びをすることができることを体験し、ここから続く学生生活をより積極的に過ごすことができれば良いと考えています。

〈報告者：上手 礼子

（瀬田キャンパス コーディネーター）〉

事業名	第1回ボランティアリーダー養成講座 「伝える力、巻き込む力を鍛えよう」
実施日	2019年8月6日（火）9時30分～12時30分
場所	瀬田キャンパス 2号館多機能教室
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	本学学生55名

1. 経緯・目的

最近の学生スタッフの活動の様子や他のサークルの相談などから、同じ仲間であっても活動を進めていく上で必要以上に気を遣ったり、共感してもらえないなど巻き込み力に課題を抱えていることが伺えます。また、各自のモチベーションや関わり度合いが異なるため、なかなか賛同が得られないといった悩みを抱えているケースも少なくありません。

これらのことから、市民活動や地域活動においてまちの多様な人々を活動に巻き込んだ経験が豊富な方を講師に迎え、ボランティア活動やサークル活動などをグループで運営していく上で、活動メンバーの共感を得るための話し方や聞き出し方、エンパワメントの方法などについて学ぶ講座を開催しました。

2. 概要

講師：大津市社会福祉協議会

事務局次長 山口 浩次 氏

主事 伊地知 彩乃氏・堀江 菜々子氏

内容：

- (1) 現場実践のエピソード
- (2) リーダーシップを育むワーク
 - 1) ワークシート1 私の物語（セルフ）
 - 2) ワークシート2 私たちの物語（アス）
 - 3) ワークシート3 コーチング
 - 4) ワークシート4 関係づくり
- (3) 振り返り

最初に山口氏の自己紹介、大津市社協の取り



組み紹介と大切にしていることについてお話された後、伝える力・巻き込む力、関係づくりを鍛えることを目的に、二人一組のペアや1テーブル4～5名のグループで繰り返しワークが行われました。

ワークの前半は、「自分の価値観に影響を与えた過去の出来事」や「自分が所属するチーム（ゼミ、サークル、バイト先、家族など）が抱える課題」について語るというテーマ設定でした。参加学生たちは自身の経験を踏まえながら、各テーマにおいてどのような困難があり、どんな選択をしてどんな結果になったのかということペアになって語り合いました。

後半は、課題を感じている人が自分の頭で考え、自分で解決策を導き出すための働きかけ方である「コーチング」という手法について説明いただきました。そして関係構築の演習「1対1ミーティング」では、仮想の場面を設定して実践するワークとなり、伊地知氏と堀江氏に、各ワークの前に、悪い例・良い例のデモンストレーションをしていただいたり、ワークにも入って

いただいたりもしました。

3. 受講者の声・得られた効果など

- ・周りのメンバーに的確な指示をしたり、判断能力があることが大事だと思っていたが、周りを巻き込む力、引き込む力が重要だと気付いた。
- ・自分を相手に紹介するとき、困難、選択、結果を伝えることでより関心を持ってもらえることを知りました。また、コーチングは大学の活動やアルバイトで活用していきたいと思えます。
- ・時間がもう少しあれば、よりじっくり考えられたと思った。コーチング、自分はうまくいかなかったが相手に良い返しをもらえた。

4. コーディネーター所感

難しく感じている学生もいたようでしたが、講師の山口氏が「自転車に初めて乗る時のように、最初から上手くはいかない。こけても練習していくうちに、少しずつ実際の場面でもできるようになる」と何度もおっしゃっていたのが印象的でした。

今回の平均満足度は87%でした。今後もセンターでは、参加学生が色々な気づきが得られるような講座を提供できるよう取り組んでいきたいと考えています。

〈報告者：ヒギンズ 尚美

（深草キャンパス コーディネーター）〉

事業名	第2回ボランティアリーダー養成講座 「今日からできる、いいチームづくり ～正しく悩めば面白いチームはできる！～」
実施日	2020年2月3日（月）13時30分～16時30分
場所	深草キャンパス 和顔館 B105教室
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	本学学生33名

1. 経緯・目的

学生団体やサークルにとって、春休みは代替わりをするにあたっての最終的な引継ぎをしたり、4月の新歓に向けて新メンバーを募集する準備に取り組む団体も多い時期だと考えられます。そこで、学生ボランティアグループの育成にも関わっておられる市民活動団体の方を講師に迎え、自分が所属するチームが現在抱えている課題を掘り起こした上で、その解決方法や次年度の取り組みについて考える講座を実施しました。

2. 概要

講師：公益財団法人 京都 YMCA
事業部長 中村 彰利 氏

内容：

- (1) 自己紹介ワーク：名前、今日の呼び名、今の気分は何%？などを A4用紙に書いてグループ内で紹介し合う
- (2) 京都 YMCA の学生ボランティア（「ボランティアリーダー」と呼ぶ）システムの紹介

(3) ワーク

- 1) 各グループのメンバーが、自分の所属するチームのいいところと困っていることを付箋に書いて出し合い、全体に向けて発表
- 2) ワーク1で出した内容の中から、一番考えたい点について、どうやったら解決できるかをグループ内で考え発表
- 3) 2020年度の計画を活動チーム（班など）に分かれて話し合い

(4) 講師からのアドバイス



ワーク1では、「リーダーに負担が集中する」「メンバーの活動に対する熱量やモチベーションが違う」「活動に消極的なメンバーへどのように声がけしていけばいいのか」などの意見が出されました。

これらの困りごとに対する解決策について、中村氏から京都 YMCA での経験をふまえた工夫や取り組みを、以下のポイントを交えてお話しいただきました。

○チーム作りで大切なこと（抜粋）

役割を振ること／続けること／楽しむこと

○チーム作りチェックポイント（抜粋）

メンバー各自に役割がありますか？／先輩は後輩を支えていますか？／互いに信頼できていますか？

3. 受講者の声・得られた効果など

- ・チームにおける先輩の立場について学びがあった。来年度は後輩が入ってくるので、後輩が過ごしやすい場所をつくっていききたい。一人一人の積極性、お互いの信頼関係がチーム作りには大切だということがわかった。
- ・普段、活動に追われてしまって、「チームづくり」をおろそかにしていることに気がつい

た。自分の所属するグループ、団体について振り返って考えることができた。

- ・この一年、上回生として悩んできたことの解決策がたくさんあった。ほかのメンバーの課題も自分の悩みに置き換えて考えることができた。来年は後輩を支える立場として、自分のすべきことを考えていきたい。

4. コーディネーター所感

中村氏からは、「課題の根底にあるものは何か」を考えつつ、話し合いの時に意見を言いやすい雰囲気づくりをアドバイスいただいたり、最後は「これだけ自分たちで解決策を考えられるなら、必ずできる」と締めくくられ、参加学生にとってのエンパワメントにもなったのではないかと思います。

参加した学生からの平均満足度は85%と高いので、いかに学生が「参加したい」と思えるような広報ができるか、事務局側の今後の課題だと感じています。

〈報告者：ヒギンズ 尚美

（深草キャンパス コーディネーター）〉

事業名	ボランティアコーディネーション力3級検定 「市民の社会参加を支える“チカラ”を身につけよう！」
実施日	2019年9月28日（土）直前研修ならびに検定試験
場所	深草キャンパス 21号館101教室
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター／特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会
参加人数	学生23名、一般18名 合計41名

1. 経緯・目的

本学学生や地域で市民活動に取り組んでいる方々が、市民活動への理解を深め、実践的な取り組みの担い手として活動できる力をつけることを目的として、特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会が主催する「ボランティアコーディネーション力3級検定直前研修並びに検定試験」を共催で実施しています。

2. 概要

(1) 当日の流れ

○直前研修

主催者挨拶およびオリエンテーション

【講義】今なぜ、ボランティアコーディネーション力なのか？

【講義】ボランティアの理解

【講義】ボランティアコーディネーションの理解

○検定試験

(2) 受験資格【※年齢は問いません】

※①②③のいずれかに該当していること。

- ①これまでにボランティア活動の経験がある。
- ②これまでに地域社会、組織（施設・機関、NPO など）においてボランティアコーディネーションに関わった経験がある。
- ③ボランティアコーディネーションに関わる予定がある。

(3) 受験料

- ・本学学生：6,380円（受講料：無料、テキスト代：2,380円、検定料4,000円）
- ・一般・その他：11,700円（全て込みのセット価格）

(4) 講師

龍谷大学社会学部教授、ボランティア・NPO活動センター長

日本ボランティアコーディネーター協会理事
筒井 のり子氏

3. 受講者の声・得られた効果など

- ・本学学生「ボランティアの意義や、コーディネーションの役割を学び、自分が今まで考えていた以上にさまざまな背景や働きがあることがわかった。学生スタッフとして活動していくうえで、知っておけば役に立つことや、なるほど！と思うこともたくさんあり、今後、学んだことを生かしていけると思う。」
- ・一般参加者「テキストだけを読んでいると難しく感じていたことも、先生の講義を聴くと

改めて理解が深まり、実感できたことがたくさんありました。おかげで検定試験もスムーズに回答することができたと思います。」

4. コーディネーター所感

日頃、職場や地域でボランティアに関わっておられる一般の方と、センターでボランティアコーディネーションを行っている学生達が共に学ぶことができる貴重な機会です。今年は一般の方からたくさんの申し込みがあり、ボランティアコーディネートに対する社会からのニーズの広がりを感じました。講師の筒井氏の事例や体験を交えた講義は単にボランティア、市民活動について学ぶだけにとどまらず、一人一人がこれからの人生を社会の中でどのように歩んでいくかを考えることにもつながっています。学生と社会人が共に学びあい、共感できる機会として、ぜひ様々な分野の方に参加していただきたいと思っています。

〈報告者：上手 礼子

（瀬田キャンパス コーディネーター）〉

